FOSE2014.docx 使用サンプル(ワード版スタイル)

An example of use for FOSE2014.docx

徳川 家康[[1]](#footnote-1)　源 頼朝[[2]](#footnote-2)

あらまし これはFOSE2014ワード版スタイルの使用サンプルです． これはFOSE2014ワード版スタイルの使用サンプルです．これはFOSE2014ワード版スタイルの使用サンプルです．これはFOSE2014ワード版スタイルの使用サンプルです．これはFOSE2014ワード版スタイルの使用サンプルです．

Summary. This document has been prepared as a sample for typesetting FOSE2014 papers using the FOSE2014 word document style.

1. ワークショップの目的

情報技術の普及が ソフトウェアの適用範囲をますます広げていく今，ソフトウェアを社会基盤となる知的資産として活用するため，ソフトウェア工学はさらに格段の進歩をとげなければなりません．FOSEはこの挑戦に向けてさまざまな基礎技術を確立することをめざし，研究者・技術者の議論の場を提供するものです．

1. ワークショップ開催概要

FOSE2014[14]は，以下の要領で開催予定です.

**日程:** 2014年12月11日(木) - 13日(土)

**開催場所:** 霧島国際ホテル（鹿児島県・霧島温泉）

〒899-6603 　鹿児島県霧島市牧園町高千穂3930番地

**主催:** 日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎研究会

**共催:** IEEE Computer Society Japan Chapter

**協賛:** 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会

電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会

電子情報通信学会 知能ソフトウェア工学研究会

1. 書式に関して
   1. ヘッダとフッタ

カバーページを除く奇数ページのヘッダには英語論文タイトルが自動で挿入されます．英語論文タイトルが変更されると自動でヘッダも変更されます．また，タイトルが長い場合は省略可能です．偶数ページのヘッダには「FOSE2014」が来ます．フッタには何も記入しないように設定してください．

* 1. 箇条書き

箇条書き

* 項目1
* 項目2
  + 項目2-1
  + 項目2-2

箇条書き（項番付き）

1. 項目1
   1. 項目1-1
   2. 項目1-2
2. 表と図

表の例を表1に示します．

表1　表の例

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| FOSE2001 | ソフトウェア工学の基礎 XIII | 杉山 安洋，藤田ハミド 編 |
| FOSE2002 | ソフトウェア工学の基礎 IX | 井上 克郎 編 |
| FOSE2003 | ソフトウェア工学の基礎 X | 鰺坂 恒夫，満田 成紀 編 |
| FOSE2004 | ソフトウェア工学の基礎 XI | 野呂 昌満，山本 晋一郎 編 |
| FOSE2005 | ソフトウェア工学の基礎 XII | 権藤 克彦，小林 隆志 編 |
| FOSE2006 | ソフトウェア工学の基礎 XIII | 沢田 篤史，丸山 勝久 編 |
| FOSE2007 | ソフトウェア工学の基礎 XIV | 岸 知二，野田 夏子 編 |
| FOSE2008 | ソフトウェア工学の基礎 XV | 松下 誠，川口 真司 編 |
| FOSE2010 | ソフトウェア工学の基礎 XVII | 高田 眞吾，福田 浩章 編 |
| FOSE2011 | ソフトウェア工学の基礎 XVIII | 門田 暁人，上野 秀剛 編 |
| FOSE2012 | ソフトウェア工学の基礎 XIX | 鵜林 尚靖，亀井 靖高 編 |
| FOSE2013 | ソフトウェア工学の基礎 XX | 岡野 浩三，関沢 俊弦 編 |

図の例を図1に示します．



図1　図の例（FOSE2005のロゴを使わせてもらっております）

1. 参考文献

[1] 杉山 安洋, 藤田 ハミド 編: ソフトウェア工学の基礎XIII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2001*, 近代科学社, 2001.

[2] 井上 克郎 編: ソフトウェア工学の基礎IX, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2002*, 近代科学社, 2002.

[3] 鰺坂 恒夫, 満田 成紀 編: ソフトウェア工学の基礎X, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2003*, 近代科学社, 2003.

[4] 野呂 昌満, 山本 晋一郎 編: ソフトウェア工学の基礎XI, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2004*, 近代科学社, 2004.

[5] 権藤 克彦, 小林 隆志 編: ソフトウェア工学の基礎XII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2005*, 近代科学社, 2005.

[6] 沢田 篤史, 丸山 勝久 編: ソフトウェア工学の基礎XIII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2006*, 近代科学社, 2006.

[7] 岸 知二，野田 夏子 編: ソフトウェア工学の基礎XIV, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2007*, 近代科学社, 2007.

[8] 松下 誠，川口 真司 編: ソフトウェア工学の基礎XV, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2008*, 近代科学社, 2008.

[9] 第16回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ,   
http://www.washi.cs.waseda.ac.jp/fose2009/, 2009.

[10] 高田 眞吾，福田 浩章 編: ソフトウェア工学の基礎XVII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2010*, 近代科学社, 2010.

[11] 門田 暁人，上野 秀剛 編: ソフトウェア工学の基礎XVIII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2011*, 近代科学社, 2011.

[12] 鵜林 尚靖，亀井 靖高 編: ソフトウェア工学の基礎XIX, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2012*, 近代科学社, 2012.

[13] 岡野 浩三，関澤 俊弦 編: ソフトウェア工学の基礎XX, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2013*, 近代科学社, 2013.

[14] 花川 典子，尾花 将輝 編: ソフトウェア工学の基礎XXI, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2014*, 近代科学社, 2014. (to appear)

1. Ieyasu Tokugawa, 江戸幕府 [↑](#footnote-ref-1)
2. Minamotono Yoritomo, 鎌倉幕府 [↑](#footnote-ref-2)